

③

さあ、いよいよ明日が待ちに待ったお茶カフェの日となりました。

景色のいいところでお茶カフェをやりたいチャーフインは、風に乗って空に上がりました。

「明日晴れたらいいな」チャーフインは大きな声で言いました。

その声に呼んで、太陽がざんざんと輝きます。そして、風が雨雲を吹き飛ばします。

みんながチャーフインたちのお茶カフェを応援しています。明日のお茶カフェは、きっと大成功ですね。

あなたも、天気の良い日に茶畑の近くを通ったら、ゆっくりと周りを見回してみてください。もしかしたら、チャーフインたちがお茶カフェを開いているかもしれませんよ。



③環境を整える



環境を整える

「今日は晴れてほしかったのに、雨が降った」
「今、風が吹いてくれればみんなが心地よいのになあ」
市の仕事は、太陽や風といった自然環境のようなものです。当然のようにそこにあるので、あまり意識はされませんが、しかし、なくては困ってしまいます。

皆さんが晴れてほしいときに太陽が照り、風が吹いてほしいときに風が吹いたらいいですね。
そのためには、さまざまな意見を聞き、市民と行政が同じ方向を向いてそれぞれの役割の下、一緒に取り組んでいくことが大切になります。そのような環境を整え、一人ひとりの思いが生かされるような市の仕事のやり方をしていく必要があります。

自治基本条例の具体的な内容については、9ページ以降の条文及び解説をご覧ください。
①情報共有、②市民参加、③環境を整える、については第2章「情報の共有」、第3章「市民参加」、第4章「市政運営」でそれぞれ詳しく説明しています。

育てる

チャーフインの物語に沿って自治基本条例の説明をしました。

物語に出てくる大茶園は、実は自治基本条例を表しています。素晴らしい茶畑も、誰にも知られることがなかったり手入れがされなかったりしたら、価値のない、ただそこにあるだけの茶畑になってしまいます。もしかすると、荒れてしまうかもしれません。そのようなことにならないように、みんなで自治基本条例を育てていくことが重要になります。

「育てる」とは、どういうことなのか、少しチャーフインの物語のその後を見てみましょう。

チャーフインたちはお茶カフェを開きましたが、この素晴らしい茶畑をもっともっと利用していきたいと考えました。茶畑の奥は、茶畑サーフィンができるスペースとして、手前ではお茶カフェやダンスをするスペースとして、みんながやりたいことをやり、楽しめる場所にするため、それぞれの活動がしやすいように茶畑を整備しました。

①知らせる
その結果、たくさんの方が茶畑に集まり、みんな楽しそうに活動しています。
多くの人に自治基本条例のことを知ってもらいます。

②手入れする
自治基本条例を土台に、皆さんが暮らしやすく活動しやすい環境整備をするために、必要なきまりなどを検討して作ります。

③利用する
整備された環境も利用されなければ、意味がありません。多くの人に利用されてこそ、条例は生きたものとなります。

条例は一人で勝手には育ちません。皆さんに手をかけてもらって、見守られて、初めて育つことができます。皆さんも、ぜひ一緒に自治基本条例を育ててください。

日誌先生からメッセージをもらったよ。先生は、平成19年度に始まった条例の検討から現在まで、ずっと牧之原市のことを見てくれた人なんだ。いっぱいアドバイスしてくれて助けてくれたんだよ。

「昨日、「市民参加によるまちづくり」が叫ばれています。それを有効性のあるものとするためには、並ならぬ努力が必要だと思っています。」
特二、市の中に「公共領域への参加」をいこうない市民がいるということが前提となります。牧之原市の場合は、このような主体性を持った市民がたくさんいて、その方々を中心に自治基本条例の草案を作られました。普通の市民が条例案を検討するということはまれなことですが、牧之原市の市民はそれを見事にやり遂げました。もちろん、その過程にあつては、行政の皆さまとの共同の作業がありました。両者が同じテーブルにつき、熱心に議論をするさまは、これまでに自治基本条例の精神を体現するものだと感じました。
この条例は牧之原市の財産です。今後も市民の皆さまが、この条例を守り育ててほしいと願っています。



アドバイザー
静岡大学教授
日誌 一幸